



にし やま
西 山 み え

けん と く ら ぶ
県都クラブ

**津市まん中こども館の
指定管理について**

問 平成25年7月オープンに向け、妊婦から孫育て世代までのすべての世代の居場所づくり、出会いの場、つなげていく場として、環境整備の準備を進めるとともに、与え、詰め込む教育から、待って引き出す教育への転換のため、自由で自主性のある居場所づくりが必要である。指定管理の具体的な内容と、こども館の現状、将来への展望はどのように考えているのか。

答 指定管理の内容は、児童福祉法に基づく児童館としての適切な管理運営、子どもの権利を尊重し子育ての力を伸ばす事業の実施、本市の子育て支援の拠点として、他の子どもに関わる施設や地域の子ども主体の活動とネットワークによる支援を行い、事業提案を発信する役割を担うことである。現状の考え方で将来への展望として、指定管理の候補者からは、乳幼児の親子の交流の場、小・中学生の遊びの場、高校生の学習の場となり、さらには子どもたちが様々な人と交流して、自ら考え、体験を積めるような場を創造していく考え方でそれを実現するために子どもに関わる機関・団体が利害をこえて、ネットワークを組んで管理運営を行う方向の提案をいただいている。

●その他の質疑・質問●

- 教育方針から、小中一貫した継続的な教育の推進についてと幼保合同保育の進め方とこども園構想についてどう考えるか
- メンタルパートナーの現状と自殺防止活動の取り組み、関連機関との課題、今後の進むべき方向性はどうか
- 津市営若者住宅の在り方について、意義と現状、有効利用に向けてのPR方法の再考を



▲美杉町太郎生の若者住宅は、3LDKで快適な空間



た なか かつ ひろ
田 中 勝 博

いっ しん かい
一津会

**「対話、前進、決断」
市長のビジョンを問う**

問 市民が関心を寄せる教育や医療、福祉、若い人を中心に広がる雇用問題。中小企業の業績不振等の心痛は、地域に共通しており、諸課題が山積している。この現状を市長は、どの様に把握しているのか。市長はトップとして、市民が安心して生活が送れるよう、限られた税収をより効率的に使う判断をし、さらに、将来世代へ繋ぐようなビジョンを示すべきでは。

答 山積する市政課題に対処するためには、市長一人がトップを走っているのではなく、職員自身がより高みを目指し、市民の皆さんが期待していることは何かという視点で常に取り組みするような高いモチベーションを持ち、結集して市役所の総合力を高めていくことが必要である。このことから、組織のトップとして、市民の皆さんに頼もしく思っていたら、頼られる力強い市役所をつくっていくことが使命であると自覚している。市民が津市に住むことを誇りに思い、誇りの持てるような格調高い風格ある県都・津市を築き上げていくことが、ビジョンであり、それを職員の意識と能力を高めることにより実現していけるよう、リーダーシップを発揮していく。

●その他の質疑・質問●

- 前業市長の施政方針から
- ・合併時に策定された「新市まちづくり計画」について
- 教育委員会の教育方針並びに予算説明書から
- ・教育委員会と小中学校長との関係について
- 審査会や委員会などの委員の選出について
- レセプト電子化の現状と医療費抑制の取り組みは など



▲将来を担う子どもたちが健やかに育つように